

「事業名：早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター事業」 2020年度事業の概要

早稲田大学 連携市町村：福島県広野町町

現地拠点：福島県双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3 ニツ沼総合公園管理棟

事業のポイント

- ・ 2050年に向けた地域変革のトリガーとなり得る取り組みとして新「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ（新SI構想）」の具体化とアクションを通じ、**浜通り地域が共通のテーマとして取り組む事ができ、さらに復興の象徴となり得るものを見出す**
- ・ 地域社会の持続可能性研究における社会的ソフトづくり（熟議の場構築）と浜通り地域の広域連携のネットワークを構築する
- ・ 対象となる自治体、地域のNPOなどの市民団体、大学の3つの連携を基本単位とする地域課題に基づくアプローチの実践

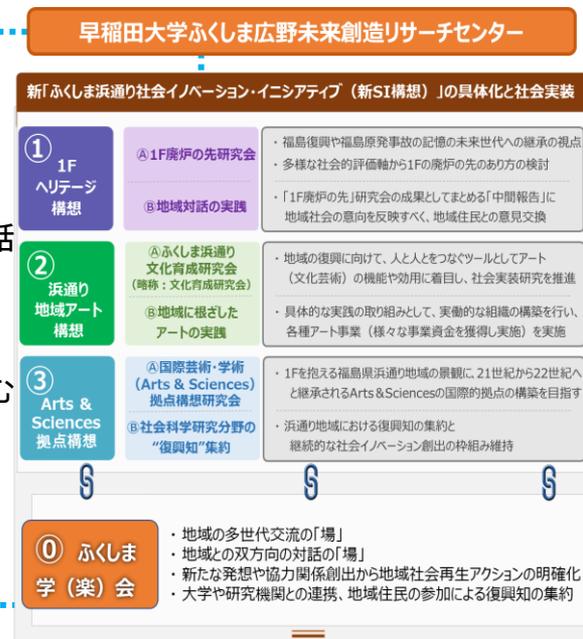
2020年度の活動内容

【新SI構想の3本柱の具体化】

- ① 1Fの事故遺産・記憶遺産としての利活用（1F Heritage Initiative）の検討を行う
 - 福島原発事故の記録・知識・記憶（RK&M）と教訓の未来世代への継承
 - 1F廃炉の先研究会を継続的に開催し、中間報告・最終報告（提言）を行う
 - 中間報告・最終報告（提言）においては、地域住民の意見を反映させるため地域対話
- ② 地域アートなどの展開による新たな地域の魅力や価値の創造による交流人口の拡大と地域循環のための広域地域経営制度の形成に取り組む
 - ふくしま浜通り文化育成と発信事業ワーキンググループ（文化育成WG）を「ふくしま浜通り文化育成研究会」（仮称）に発展させ、様々な具体的なアクションに取り組む
 - アートとケアとの協働による福祉文化拠点の形成に着目
- ③ 福島の教訓を未来世代へ発展的に継承し、福島県浜通り地域を新たな文化創造と文化発信の地域として再生するための国際芸術・学術（Arts & Sciences）拠点の形成
 - 国際芸術・学術（Arts & Sciences）拠点構想研究会（仮称）を立ち上げ、6回から8回程度の研究会を開催し、中間報告・最終報告書（提言）をまとめる

取り組みによって得られる成果

- ㉑ 浜通りの広域連携：連携協定自治体の拡大、浜通り地域アート・1F産業遺産保存での協働
- ㉒ 地域の持続的発展：100万交流人口を実現する広域DMOの組織化
- ㉓ 地域の未来を担う人材育成：ふたば未来学園高校との連携、学生が地域に関与する仕組み構築



研究成果の地域への還元

- ㉑ 浜通りの広域連携
- ㉒ 地域の持続的発展
- ㉓ 地域の未来を担う人材育成

地域社会から見たイノベーション・コースト構想の実現